No.51

2007年11月

aaca

東京音楽大学本館　ガレリア

北上市文化交流センター　アートファクトリー

木曽川町文化会館　音出しロビー

CONTENTS

建築と文化を語るタベ「新たな関係性の生産へ」　2・3

シナジー展　4

AACAフォーラム「水引と結びの文化」　5

AACA　神戸・淡路地区建物視察会　6

AACA賞　芦原義信賞　応募作品　7

トピックス　8

社　団　法　人

日本建築美術工芸協会

文化事業委員会　建築と文化を語るタベ

「新たな関係性の生産へ」　野口秀世

2007年9月13日　アトリエユニオン東京ショールーム

主催　社団法人・日本建築美術工芸協会　　協賛　株式会社　ユニオン

aaca
日本建築美術工芸協会
2007年11月ー2

講師紹介　野口秀世(のぐちひでよ) 氏

1983年　東京大学大学院
工学系研究科建築科修了

㈱久米設計
建築設計部　設計部長
一級建築士. 工学修士

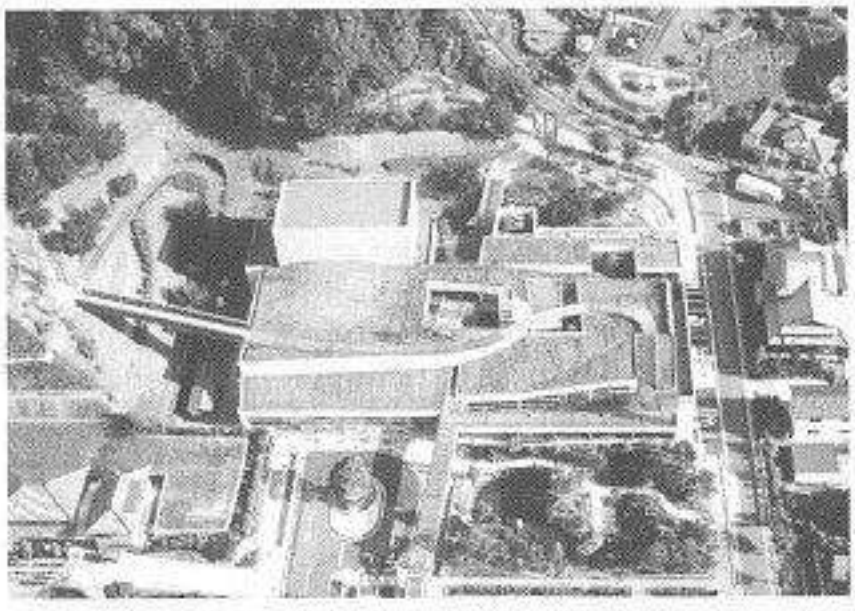
代表作品　北上市文化交流センター・さくらホール
とぎつカナリーホール
江東区江東公会堂（ティアラこうとう）

経済成長を終え、高度消費化・情報化を経て、急速に人口減少社会へと進む日本。社会の枠組が大きく変わり、個人の価値観、人的ネットワークは、共同体への帰属性や場所性から自由になったが、同時にそれらの無意味化も伴い、家族内や地域的な人間関係は希薄化してしまった。しかし人間は生きることの意味を問い続ける生き物であり、どこかで他者との信頼関係や絆を深めようとし、「生きがい」や「やりがい」を見出そうとする。
このような状況下で、地域文化施設が担う新たな社会的役割が見えてくる。文化活動は複数のメンバーが互いの存在を必要と感じながら、力を合わせて一つの作品を作り出す過程であり、そこに他では味わえない達成感や自己実現を見出すことが出来る。

地域文化施設には、文化活動が持つこの強い力を介して、新たな人的ネットワークを再び身近な地域社会に生み出すことが可能であり、最近手掛けた事例を通して、その具体的な事例の展開を紹介、説明した。

■とぎつカナリーホール
（長崎県西彼杵郡時津町：2002年5月オープン）

広大な都市公園の入口部分に建つ、文化会館・児童館・民俗資料館からなる約6,000㎡の複合施設である。緑豊かな小山に囲まれ、散策路からも見下ろされるため、環境に溶け込むように、建築全体を緑化し、それ自体がひとつの新たな公園として出現するようにした。周囲には既存の児童遊園、展望所、和風庭園や公園駐車場があり、これらを活かしながら自由に行き来できるように数多くの散策路を建築内外に張り巡らせている。



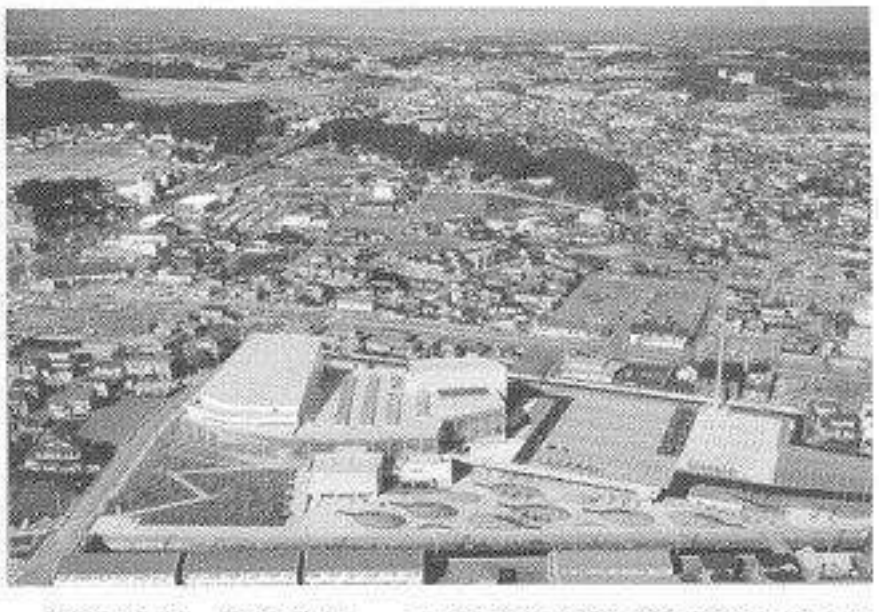
散策路には練習室群やラウンジ、児童館やカフェを、テラスや中庭で接続し、晴れの日にはそのまま外部に出て、気持ちのよいひとときを過ごせるようにした。

内外部間や諸室の境界はガラススクリーンで形成し、そこで出会わせた人々が同じ場の空気を共有するように心掛けた。こうすることで互いの存在をより強く感じることが出来るようになるからである。例えば、空中散策路を歩いていると突然ロビーコンサートに出会したり、廊下を歩いていると楽しげな練習風景を見て自分も参加してみたくなったということが、発生するようになっている。このような楽しい出会いの場を建築の至る所に用意し、ここに集まってくる沢山の子供たちや芸術愛好家、近所の親子や散策者たちが、日々の暮らしの中で互いに感化され、人的ネットワークを増やしつつ、音楽や舞台芸術と係わり会える豊かな生活を創り出していけいけるようにした。

・ロビーコンサートに出くわす公園散策者

■北上市文化交流ｾﾝﾀｰ　さくらホール
（岩手県北上市：2003年10月オープン）

芸術愛好家にとっては成果の発表・公演以上に、日々の練習に意味があり、他では味わえないような体験や充実感を得ることが出来る。



様々なきっかけから、人々は文化的行為を身につけるようになるが、最大の媒体は人そのものではないかと

いう認識を私は持っている。とすれば、芸術愛好家と何もしていない人とを同じ場に居合わせ、出会わせることで、文化的行為が伝播していくのではないかと考えた。

そのような場を実現しようとしたのが当プロジェクトであり、日常的な活動の場となる練習創作空間を重要視しつつ、施設の中心的存在にまで高めることで、このような伝播が様々な形で発生することを図った。

練習室群と休憩スペースの展開

具体的には、外部環境と連続するワンボックスの自由空間を作り、公園のように、誰でも自由に歩ける場を創出。その中央に「アートファクトリー」と名付けた、

練習創作室群が散在する場を作り、舞台芸術に係わる多様な活動が立体的に展開する、地域の生活空間を創出した。またホールの観客とアートファクトリーの練習者が一つの場で出会い、観客が期せずして練習風景に感化されたり、練習者同士が意気投合して新たなグループを結成するといった、活動の連鎖が地域に広がっていくことを図った。

・共用空間でストリートダンスの練習

このように、新たな建築プログラムと空間計画を導入し、訪れた人々の間に、相互のライフスタイルや価値観の偶発的な交換や分配が行われ、新たな音楽グループや演劇サークルが生まれつつ、地域の人々の生活が豊かになっていく場を目指した。

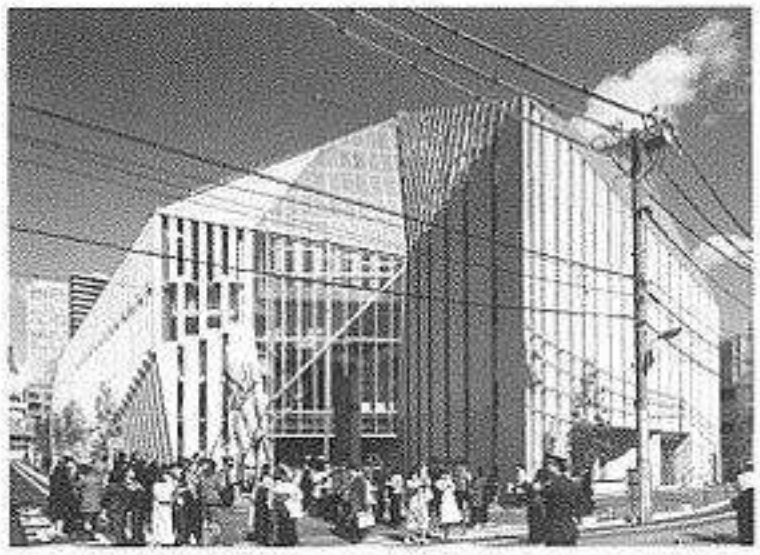
■東京音楽大学100周年記念本館

（東京都豊島区：2007年4月オープン）

人口減少化を迎え、学生数が少なくなる現在、いかにして地域と共存しつつ社会のニーズに応えながら学生・社会人受講生を獲得するかが、大学共通の課題となってきている。東京音楽大学は私学として最も歴史のある音大であるが、当プロジェクトにも閑静な住宅地と共存するため学内騒音を音響的に閉じつつ、社会人教育等へ向けて社会に開くという課題が与えられた。

民間のプロジェクトであっても地域に開くという姿勢を、運営者も建築も有していれば、そこに公共性が発生すると考える。

敷地は公道により４分割された大学の中央に位置するため、常に学生・教職員の多様な流れがこの場に横断的に発生する。そのためまず初めにここを、人々の多様な流れをまとめつつ一体化する広場として位置づけるとともに、トップライトによるインナーキャンパス化を図ることで学内騒音の漏出を防いだ。更に限られた広さの中で数多くの要求諸室を納め、１０００人規模のマスアクティビティが安全、且つスムーズに上下移動できるよう、大地がそのままスパイラルアップしたかのような空間構造を採用し、学生生活が立体的に展開する場を創出しようとした。キャンパスの大通りとなる緩やかな階段坂は、陽光で満たされたガレリアを旋回しつつ各階を連続化し、立体的なループを形成する。このループを中心に、多様な人々の流れが発生し各所へ流入しつつ活気が充満していくような、精力的な場のあり方を追及した。

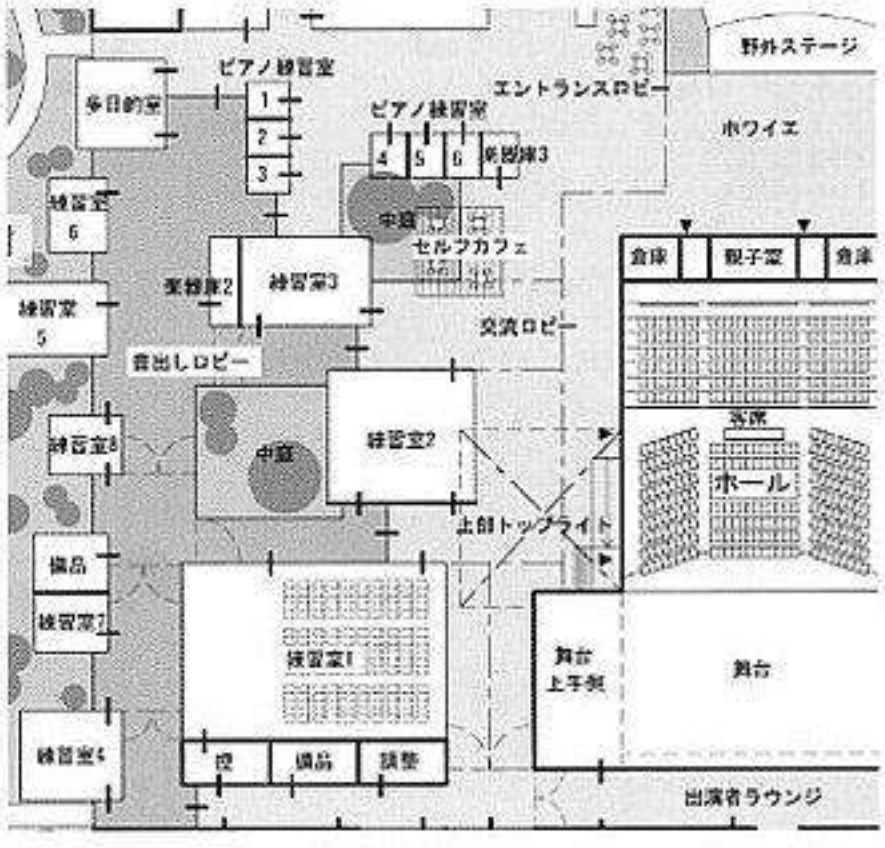


地域への配慮として、敷地の一部を提供し緑豊かな並木道を形成するとともに、住宅地に対する威圧感を軽減し、開かれたキャンパスとして開放感を出すため、諸施設を短冊状のPC板とスリット開口で構成し、建築全体に自然光と視界を取り入れ、リズム感も生み出している。

■木曽川町文化会館

（愛知県一宮市：2010年末オープン予定）

このプロジェクトは地方都市の郊外に建つ、クラシック音楽活動に主軸を置いた地域文化施設である。周囲には吹奏楽の盛んな中学・高校が多数あることから、彼らがいつも部室や音楽教室のまわりで自由に個人練習している習慣をそのまま施設に持ち込むことを提案した。



「音出しロビー」と名付けたこのフリースペースでは、中高生達とともに社会人も無料で練習でき、年齢やジャンル、サークルの枠を越えた交流と活動が地域に展開していくことを目指している。

展覧会委員会

第6回　シナジー展

2007年10月22日～11月4日　建築会館1階建築博物館・中庭

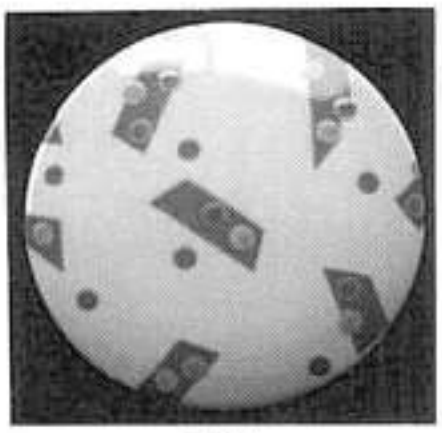
主催　社団法人・日本建築美術工芸協会　　協賛出展　ケント・アルファ㈱　ピオポンド社

協賛　㈱アトリエトラベル、㈱ユニオン、㈱ウオーターデザイン、織部製陶㈱、大塚オーミ陶業㈱、ナスエンジニアリング㈱、㈱ＩＮＡＸ、

aaca

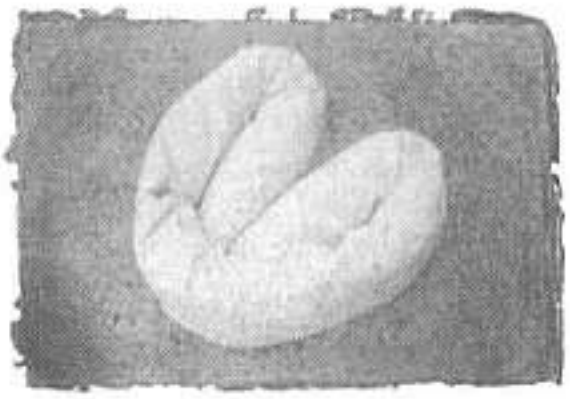
日本建築美術工芸協会

２００７年１１月－４



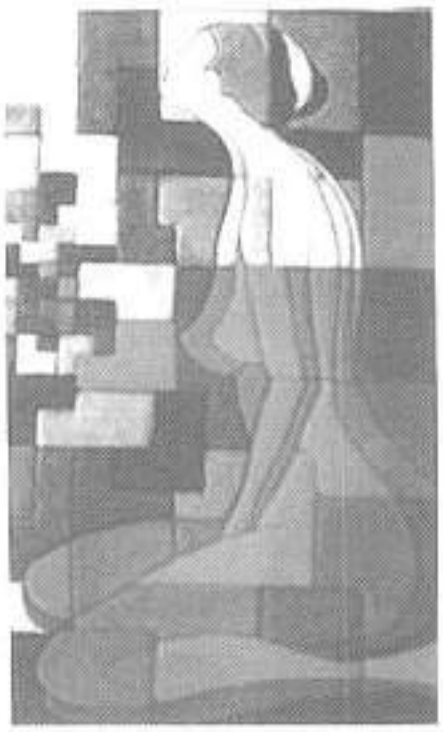
陶芸
片田佳子

建築
河北　英

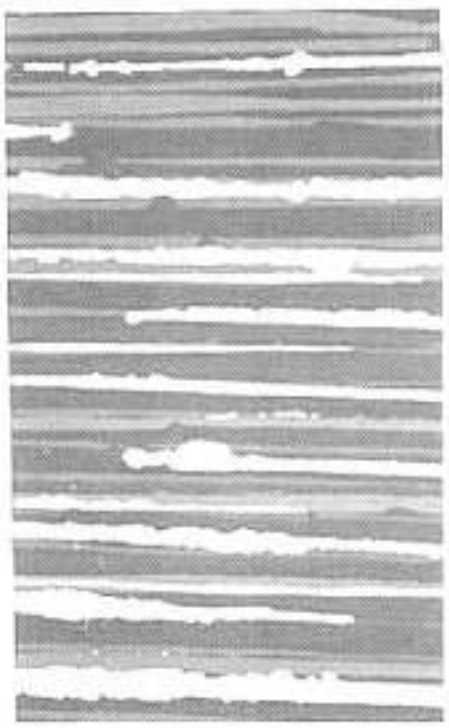


版画
長　はるこ

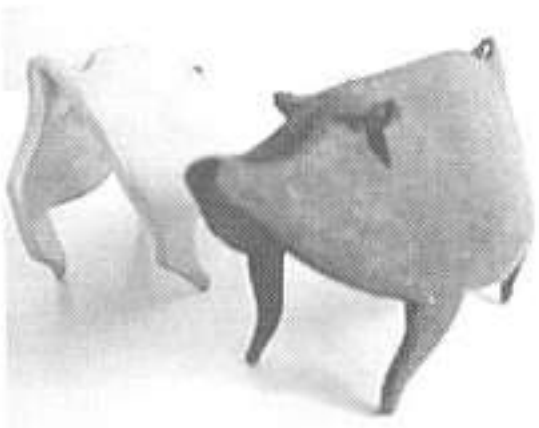
第６回シナジー展を開催しました。今回はフランク・ロイド・ライト設計の自由学園明日館の建物に対して、各メンバーがそれぞれの素材を使い空間提案を試みました。



ブリスアート
浜崎　ベア



ステンドグラス
平山　健雄



金属
ブース　市村

彫刻
三木　勝

シナジーとは様々なジャンルの人々が集い参加することで生まれるエネルギー効果(相乗作用)を表わしています。

フォーラム委員会　　第163回　ａａｃａフォーラム

園部洋子「水引と結びの文化」

2007年10月15日　アトリエユニオン東京ショールーム

主催　社団法人・日本建築美術工芸協会　　協賛　株式会社　ユニオン

aaca
日本建築美術工芸協会
２００７年１１月－５

水引の起源は遥か遠く、六世紀末から七世紀前半の飛鳥時代にまでさかのぼります。遣唐使の小野妹子が帰朝する折り、無事帰還できるようにとの祈願のため唐からの返礼使が携えてきた贈り物に紅白の麻紐が結ばれていました。

この麻紐が水引の起源となり、それから宮中での献上品は紅白の麻紐で結ぶ習慣が広がるようになるました。

当時は「くれない」と呼ばれ、「みずひき」とよばれるようになったのは平安時代に入ってからで、麻紐であったものが、和紙となったのは室町時代からになります。

さらに庶民の生活に浸透し、現在のように日本独特の文化として定着したのは江戸時代になってからのことです。

また文事２年(1186年)　飯田の地頭近藤六郎周家(ちかいえ)が紅白に染めた紙を縒り、凍み豆腐にかけ朝廷に献上したと言うことが古い飯田の文献に載っております。

飯田水引は江戸時代、寛文12年(1672年)　野洲烏山(栃木県)からお国替えとなった藩主・堀美作守親昌公(ほりみまさかのかみちかまさ)が和紙の製法を伝えたことに始まります。元々良質な水が豊富にあり紙漉を当期の副業として行う農家が多く、幕府への献上品を飾るための水引も作られていましたが、髷(まげ)を結うための元結(もとゆい)や、和綴じに使う紙紐が主流でした。しかし当時の元結はまだ使い心地が良くなく切れやすいと言った難がありました。そこで名古屋から紙漉職人一門を呼び寄せ紙漉の工夫を加えたことにより、薄くて丈夫な上質の紙を漉くことが出来るようになり、また美濃の国(名古屋とも)から元結職人(紙漉職人とも)の桜井文七を呼び寄せ、薄くて丈夫な美しい元結を作ることに成功しました。

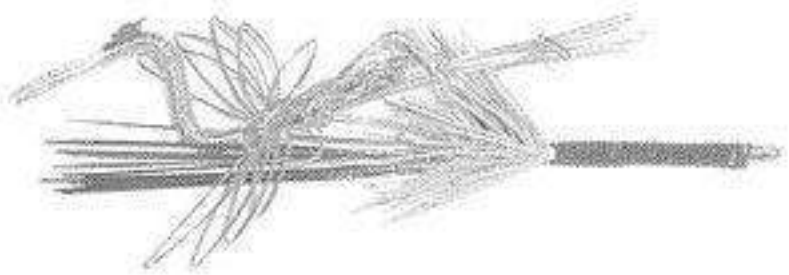
当時飯田藩は、質素倹約・自給自足の為、又禄の支給に事欠いていて貧しい藩であったが、藩主は下級武士、足軽にこの元結を作る技術を習得させ、これを奨励しました。

武士気質で作り上げた元結は上質で、献上品として多く作られ、また技術が流れ出ないよう職人には大変厳しく管理されておりました。実際桜井文七も晩年里へ帰る途中に大平にて暗殺されております。一方で「車止め」と称して賃上げ要求をする等ストライキの先駆けの耀なことがあったり相撲の興行などは木戸銭免除の様な特権も与えられておりました。この元結を江戸に売り込みに行き、大相撲では「金剛力」という名で、一般より若干太めの丈夫な物が喜ばれ、又吉原や女性には「鬼引き」と言う、白く美しい元結が人気を呼び、侍には「天下一」と言う武士の気風にあった名目で親しまれました。「文七元結」は江戸で好評を博し、実に江戸のシェア７０％は「文七元結」でした。

現在、歌舞伎や高座で人情噺として人気のある「文七元結」の文七は桜井文七とは別の人物ですが、このように後世まで伝えられる人気のお話になったのも、この文七元結が人々の広く親しまれた証と思われます。

このように飯田の名前が全国に知れ渡る様になりましたが、文明開化の断髪令により元結は急速に廃れ、代わりに副業であった飯田水引が主力産業として成長を遂げ、現在の発展につながっていきます。　現在元結を使う主な先は大相撲、時代劇等のかつら、文楽人形等で、特に大相撲で使っている元結は１本で60Kgの物が吊せ、人間の指などは簡単に切れてしまうそうです。髷(まげ)は二本でしっかり結んでおり一場所で使われる量は60島・年間360島(144万本)使われます。「島」と言う文字は飯田で言う単位で　元結は一島4000本、水引は一島2500本です。

四国伊予では「綯」という文字を使っています。



講師紹介　園部洋子(そのべようこ)氏

1944年	長野県飯田市出身　水引の産地	
1968年	水引結道　創作活動開始	
1997年	水引ファンタジックアート出版	
2000年	水引結道入門出版	
2001年	心気神道構築	現在に至る

「納采の儀」と言うのは皇室の結納で、起源は仁徳天皇(313～399年)の時代まで遡ります。仁徳天皇が皇后を迎える際に贈物をされたのがその起源とされています。

「くれない」という水引を皇室の慶事に用いられますが実物は松の葉の様に濃い緑で、およそ紅くはありません。当初は口紅で染めておりこれがくれないの語源の様です。紙も口紅も大変高価な物で、皇族、貴族の間でしか使われない物でした。現在は紅でそめているのではなく合成染料ですが、本来は紅花で玉虫色になるまで繰り返し繰り返し染めた、大変手間のかかる物です。又強く結ぶと白い部分に紅が移る為、結び直しがきかない、一度きりと言う形が出来ました。

緑の黒髪、カラスの濡れ羽色等というように、元々日本人、特に貴族はこのような色を好んでおり、髪、神、紙になぞらえて使われるようになったとも言われております。

又京都では御所に倣い、葬儀の際に黒白ではなく、黄白の水引をかけたお香典を持っていこますが、それも「くれ無い」の習慣から生まれた文化であります。

結納が一般にまで普及したのは明治時代で、大正天皇のご成婚(明治33年)を庶民が真似をし始めたところからと言われております。当社は紅白で簡単な結び(鮑結び)７品目程度であったと言われております。大正時代辺りに金銀の水引が出始め、その土地土地によって様々な結納の形が出来初めてまいりましたが戦争となり、一時期結納も贅沢品として影を潜めることとなりました。戦後は復興に伴い結納が行われるようになり、又平面の結びが立体になってきたのが昭和35年辺りからで、そこから豪華な結納が出来始め水引の黄金時代が開花されました。ピーク時は90億円市場だったと言われており、水引屋さんはお金持と言うのが常識でしたが、バブルの崩壊、少子化により、現在は10分の1程度に落ち込んでしまいました。

飯田市では昭和48年に昼神地区で温泉が湧いたことで沢山の観光客が来るようになり、水引もお土産品・工芸品として急成長を遂げました。現在水引は地元で作られる事がほとんど無く海外産が流通しており、価格破壊に伴い、後継者不足の問題が起きています。又元結職人も飯田では3人しか残っておらず、高齢化している為に後継者の育成が急務となっています。かってはどの家庭にも紅白の水引があり、自分で結んで贈っていたようですが、現在では結べる人も少なくなってきております。又、女学校ではお作法の時間として茶道や、華道と共に必須科目でしたが現在そのようなお作法の時間も無くなり、日本のゆかしい文化が引き継がれないのは寂しい限りであります。

水引自体を知らない人も増えてきており、もっと多くの人々に知ってもらうため、小中学校で講座の機会を通して又、水引教室を開く事により、実際に手で触れる事により経験は知識に勝るものとして　触育を広めております。

文化事業委員会

神戸・淡路地区建物視察会

2007年10月26・27日

主催　社団法人・日本建築美術工芸協会

aaca
日本建築美術工芸協会
2007年11月－6

第二回　建物視察会は　神戸・淡路地域の建物を巡り400年の歴史を誇る淡路瓦の工場や大工道具の展示館等の見学と、関西地区所在の会員・設計事務所・施工会社等からも参加を得て実施いたしました。折からの台風の影響で小雨交じりの天候でありましたが、2日間事故もなく無事に終えることができました。各施設では専門の方から詳しい説明を受けることで一般の見学者では知ることの出来ない貴重な情報を得る事ができました。

東京地域より20名、関西・中部地域より14名の参加を得て施設の見学や夕食会ではそれぞれが気軽に情報交換を進めると共にお酒も加わり大いに楽しい雰囲気の視察会となり今回の目的は十分達成でき、極めて有意義なものとなりました。（文化事業委員会　大下清和）

■北淡震災記念公園・野島断層保存館

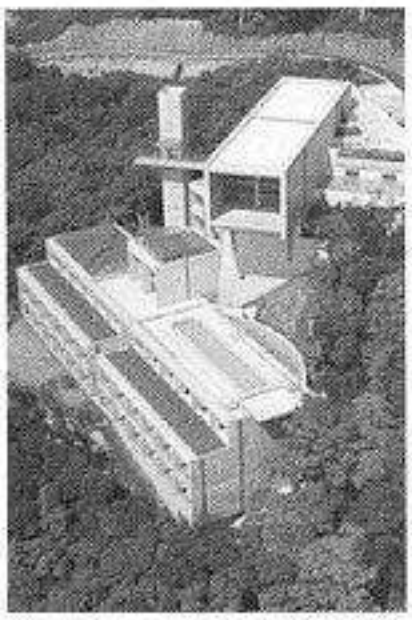
平成7年1月17日午前5時46分に発生した兵庫県南部地震(阪神淡路大震災)はM7.3の最大深度を記録し、死者6433人という戦後最大の被害をもたらした。当淡路島北淡町では、長さ10kmにも及ぶ地震断層が出現、なかでも小倉地区は断層による道路、生垣、畦等の破壊状況が各所で見られ、今なお地震エネルギーの巨大さと複雑な地表面の変化に自然の脅威を感じました。

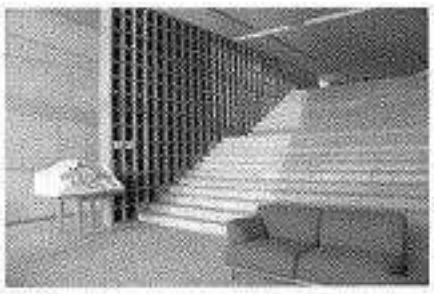
■野水瓦産業・工場

野水産業株式会社は明治18年創業、会社設立昭和40年で、淡路島産出の粘土を成形・焼成し瓦として出荷されて行く過程を見学実感した。淡路瓦400年の伝統を受け継いだ職人の手技や最新技術を駆使した焼成炉設備には驚きを覚えました。景観材としての用途が拡大している。

■TOTOシーウインド淡路

設計は世界的な建築家・安藤忠雄氏。大阪湾を見下ろす高台に位置し地形に沿って建てられ、周囲の自然に溶け込む。建物のキーワードは「海」。コンクリートの打ち放しの外観や開放感あふれる吹き抜け空間、シンプルでスタイリッシュなラウンジや客室、大阪湾に面したプール、空と海との調和が特長でした。





■竹中大工道具館

近代化の急激な建築生産方式の変革と共に、今日まで日本建築史を飾り支えてきた大工道具の精華はやがて姿を消そうとしています。またその道具を育んできた鍛冶の技も同様の運命を辿りつつあります。ここでは主として手作りの大工道具を系統的に収集・保存し研究展示を通して工匠の精神と技術を永く後世に伝える目的で開かれており、2万5千点にも及ばんとする収蔵品には感銘をおぼえました。

竹中大工道具館入り口

展示室

のこぎり展示

式祭用具

■相楽園

神戸市内唯一の日本式庭園、小寺泰次郎氏が明治末期に築造完成した庭園で、回遊式林泉園に加えて欧米化の影響を受けて広場も併設されています。昭和16年神戸市に譲渡されました。旧小寺家厩舎、旧ハッサム住宅、船屋形、浣心亭などの建物と楠の大木、蘇鉄林など雄大な景観を見ることができました。

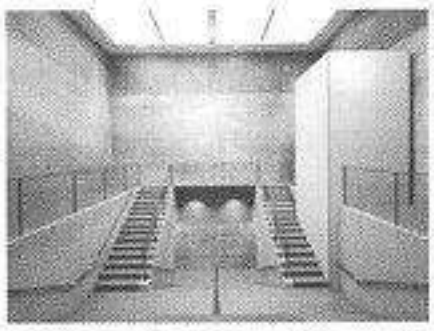
旧小寺邸厩舎

船屋形

■兵庫県立美術館

安藤忠雄氏の設計、美術作品の展示だけでなく様々な美術の融合の場として設計されていた。

海側階段広場



展示室エントランス

表彰委員会

第17回 AACA賞・第6回 芦原義信賞　応募作品

aaca
日本建築美術工芸協会
2007年11月−7

AACA賞応募作品	応募者・応募団体	作品名
1	鶴田ハジメ	FUSION（融合）
2		The luminous eaves
3	連　健夫	児童養護施設ゆりかご園　心理療養棟（コスモス）
4	㈱テイ・グラバー　朝永徹一	沖縄ナハナ・ホテル&バー
5	三澤憲司	品川区大崎光の滝公園モニュメント
6	㈱久米設計	味の素グループ高輪研修センター
7	㈱久米設計　代表取締役社長　山田幸夫	富岡町文化交流センター「学びの森」
8	鹿島建設㈱　植野　糾	イタリア文化会館ビル
9	㈱大林組 東京本社一級建築士事務所 川瀬俊二　浅利徳男　西川隆夫	六本木天然温泉 zaboo&GRAND Shiespa
10	㈱日本設計　関西支社 シニアアーキテクト　松尾和生	世界救世教平安郷研修センター
11	㈱アーネスト空間工房	ビルの谷間の白い家
12	千葉　学	日本盲導犬総合センター
13	大成建設㈱　代表取締役社長　山内隆司	現代茶室プロジェクト　茶室のある数寄屋の保存と立礼席の増築 −アート・伝統の匠・最先端技術の融合−
14	はやしまりこ	JAL　成田空港　サクララウンジ　アートワーク
15		新宿タカシマヤ　1F　天井画
16	三井不動産㈱ 執行役員　東京ミッドタウン事業部長　市川俊英 ㈱日建設計　代表取締役社長　中村光男 ㈲TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE	東京ミッドタウン 「洗練され調和のとれた都市空間」
17	鹿島建設㈱　北　典夫	TORANOMON TOWERS
18	寄神宗美	現代建築と陶造形—The Ritz Carlton—
19	LANDOTRACE 西田潔史	神戸新開地商店街 シンボルゲート・モニュメント「BIG MAN」
20	三井不動産㈱　代表取締役　社長　岩沙弘道 ㈱日本設計　代表取締役社長　六鹿正治	三井本館の保存・活用と日本橋三井タワーの開発
21	大成建設㈱　代表取締役社長　山内隆司	サッポロビール博物館
22	㈲TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE 取締役　清水敏男	名古屋ルーセントタワーアートワーク
23	㈱竹中工務店　設計部　山口広嗣＋宮下信顕	AGCモノづくり研修センター
24	㈱竹中工務店　設計部　藤田純也	天心聖教本部聖堂
25	㈱安井建築設計事務所 本能まちづくり委員会	職人の技を活かした景観づくり 〜染のまちに咲くのれんの華〜
26	㈱佐藤総合計画	杉並公会堂
27A	枡野俊明	祇園寺紫雲台主庭「龍門庭」「聴楓庭」「水到渠成の庭」
27B		ルポール麹町庭園「青山緑水の庭」
27C		セルリアンタワー東急ホテル庭園「閑坐庭」
28	㈱竹中工務店	佐川美術館　樂吉左衛門館
29	㈱竹中工務店九州支店支店長　山本光男	戸畑C街区整備事業

芦原義信賞応募作品	応募者・応募団体	作品名
1	大成建設株式会社	『横河電機株式会社　金沢事業所』
2	鶴田ハジメ	The luminous eaves
3		FUSION（融合）
4	連　健夫	児童養護施設ゆりかご園　心理療養棟（コスモス）
5	工藤和美・堀場　弘/シーラカンスK&H	福岡市立博多小学校・奈良屋公民館
6	㈱大林組（設計本部設計第4部　和田克明）	資生堂美容技術専門学校
7	神家昭雄	黒の家
8	鹿島建設㈱　松崎健二	東京大学　駒場コミュニケーション・プラザ
9	手島浩之	八木山の住宅
10	㈱竹中工務店　設計部　山口広嗣＋宮下信顕	AGCモノづくり研修センター
11	㈱竹中工務店　設計部　高木利彰、和田安史	アルテミス宇都宮クリニック
12	㈱竹中工務店　設計部　関谷和則	養命酒健康の森　記念館
13	河野有悟	東京松屋UNITY
14	㈱竹中工務店　設計部　須賀定邦	ストロングビルディング
15	㈱竹中工務店　大阪本店　設計部　浜谷朋之	関西大学総合学生会館メディアパーク凛風館

トピックス

aaca
日本建築美術工芸協会
2007年11月－8

新入会員　（2007年8月～2007年10月　入会・敬称略）

個人会員

千葉　学	〒151-0051	渋谷区千駄ヶ谷3-54-4-B1	TEL03-3796-0777	(有)千葉学建築計画事務所
片田佳子	〒154-0017	世田谷区世田谷3-26-12　宮脇様方	TEL03-3706-6039	
庄　　漫	〒196-0015	昭島市昭和町4-7-17　耕和昭島ビル408	TEL090-8305-6593	
和田　清	〒542-0081	大阪市中央区南船場4-11-28 ダヴィンチ南船場2F	TEL06-6243-6113	(株)パウハウス丸栄
松尾　裕	〒606-0025	京都市左京区岩倉中町398	TEL075-706-2566	
平田博章	〒713-8102	倉敷市玉島1-2-15	TEL086-526-0051	(有)平田工務店 一級建築士事務所
渡邊早苗	〒340-0023	草加市谷塚町1153-6	TEL048-922-1762	
河野有悟	〒110-0015	台東区東上野6-1-3　東京松屋UNITY1101	TEL03-5948-7320	河野有悟建築計画室
手島浩之	〒980-0811	仙台市青葉区1-15-38小林ビル2F	TEL022-217-2515	(有)都市建築設計集団
鶴田ハジメ	〒103-0007	中央区日本橋浜町3-45-5	TEL03-5614-5871	(株)エーセプト コーポレーション
小島雅士	〒530-0046	大阪市北区菅原町11-10　オーキット中之島	TEL06-6362-3077	エヌ・エフ・ジェイ(株)
湯野　忠	〒862-0967	熊本市流通団地1-21	TEL096-377-2171	
工藤和美	〒168-0063	杉並区和泉3-12-8-2F	TEL03-5355-0635	シーラカンスK＆H(株)
堀場　弘	〒168-0063	杉並区和泉3-12-8　加丸ビル2F	TEL03-5355-0635	シーラカンスK＆H(株)
西田潔史	〒657-0051	神戸市灘区八幡町2-6-13-402	TEL078-856-8229	一級建築士事務所 ランドトレース
中村将雄	〒550-0015	大阪市西区南堀江1-11-5	TEL06-6531-7263	中村タイル(株)
大島由美子	〒177-0035	練馬区南田中4-27-8	TEL03-3997-8816	

法人会員

(株)TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE	取締役　清水敏男	担当　江端紗恵	
〒106-0032	港区六本木7-3-22-4F	TEL03-5785-2310	
(株)アーネスト空間工房	代表取締役　山口　徹	アーネストホーム　営業企画管理課　川野辺雅江	
〒151-0063	渋谷区富永1-18-5　TIビル	TEL03-5454-0130	
三基ルーバー(株)	代表取締役　秋山光和	担当　代表者と同じ	
〒103-0006	中央区日本橋富沢町7-1	TEL03-5645-7888	

個人会員・法人会員の皆様へ　総務委員会からの御願い

当協会は本年5月通常総会にての議決により平成20年度より新公益法人としてスタートいたします。その為会費の納付手続きを4月度に合わすべく会員各位に20年3月までの会費、及び20年4月より21年3月までの請求書をお送り致しております。また3月まで完納の皆様には20年2月に20年度分の御請求を一斉に送らせていただく予定でございます。当協会の活動はほとんど会費に依存しておりますため、ご納付につきましては遅滞等の無きよう御願いいたします。今後も各種事業、会報、インターネット等にて、さらなる会員サービスを増強して行く所存ですので何卒ご理解ご協力を重ねて御願い申しあげます。

会員投稿記事　募集中

会員の皆様の
作品紹介、活動報告、
展覧会、個展等のご案内
企業の広告、出品展等のご案内
を　会報に掲載いたします。
詳しくは事務局にご相談ください。

会報について
会報への　ご意見　ご希望を
お寄せください。　（広報委員会）

aaca

発　行　社団法人　日本建築美術工芸協会
〒108-0014
東京都港区芝5-26-20　建築会館6階
Tel　03－3457－7998
Fax　03－3457－1598
URL　http:/www.aacajp.com
E-mail　info@aacajp.com

編　集　広報委員会
石田　眞人　北村　孝昭　瀬川　秀之
竹生田　正　中村　弘子　野口　真理
長谷川　亨　本田　宣之　山崎　輝子
事務局
安達　新

制作協力　美和野印刷株式会社